

## 2019年度 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

日時 : 2020年1月31日(金) 10:00~11:00

### 全体

Q: 3Q決算の対計画比は。

A:

《全体》

売上高 2桁億円前半の減収

営業利益 1桁億円の増益

《セグメント別》

パワエレシステム エネルギー 減収減益

パワエレシステム インダストリー 減収減益

電子デバイス 増収増益

食品流通 若干減収、若干増益

発電プラント 若干減収 若干増益

### パワエレシステム

Q: 4Q見通しが対前年で増益となる要因と今後の見通しは。

A:

《パワエレシステム エネルギー》

・器具の損益好転および高採算のシステム案件により増益になると考えている。

・2020年度に向けては、足元で半導体の設備投資が回復、国内・アジアでのIDC向け投資が活況であることを背景にUPSや電機盤、変電など電気設備一括でのシステム案件の受注が増えており、来年度の利益に寄与する。

《パワエレシステムインダストリー》

・4Q見通しは、スクラバの3Qからの計上時期ズレ分、インドの海外子会社の連結影響分(下期より連結)に加え、コンポーネントの緩やかな回復、プラント案件の計上を見込んでいる。それらを加味して、4Q対前年は増収増益の見通し。

・一番大きなリスクは、新型コロナウイルスの影響による中国市場の状況だ。工場部品は4Qに製作するコンポーネント分は確保しているが、引き続き動向を注視し対応していく。来期に向けた生産部品調達などにも留意していく。

Q：低圧インバータ、FA コンポーネントで需要が増えている業種は。

A：

・顧客別に濃淡はあるが、半導体関連や一般機械向けで受注が増え始めている。システム案件では、米国向けオイル&ガス市場向けが好調。

## 電子デバイス

Q：電子デバイスの3Q 営業利益率の悪化要因と4Q以降の利益率の見通しは。

A：

・3Q 営業利益率は、半導体の xEV 向けパワー半導体の需要増を見据えた先行投資による資本費増、2Q で生じた新製品立上げロス、為替影響による悪化が影響している。  
・昨年までは、10%超の利益率をだしており、早急に10%を超える利益率を目指したい。

Q：パワー半導体の分野別4Q、来期の受注見通しは。

A：

・自動車分野は足元でも堅調に推移しており、4Q、来期に向けてさらに増えていく見通し。  
・産業分野はFA 関連向けは厳しい環境だが、太陽光・風力などの新エネ向けやエアコン向けで4Q 以降も好調が続くと見ている。産業分野全体で4Q は若干増の見通し。

Q：自動車向けパワー半導体が好調な背景と新型コロナウイルスが需要に与える影響は。

A：

・受注増の背景は、xEV の比率が増加していることに加え、新規案件(国内、欧米)の立ち上がりが必要な要因。新型コロナウイルスの影響は不透明であるが、顧客は中国だけでなく全体として需要は増えていくとみている。

Q：パワー半導体の xEV 向けと xEV 向け以外の割合は。それぞれの足元の状況は。

A：

・xEV 向けと xEV 向け以外は約半分ずつ。  
・xEV 向けはIGBT を中心に好調に推移しており、3Q 累計売上は対前年で約50%増。  
・xEV 向け以外は、ほぼ横ばい。

Q：新エネ向け、エアコン向けで需要が増加している背景は。

A：

・新エネ向けは、環境問題を背景に、中国や欧米など海外向けが伸長している。  
・エアコン向けは、中国のルームエアコン向けの需要が増えている。新規開拓による増加、上期の在庫調整により需要が増加。足元の状況を踏まえると来期上期までは好調が継続するだろう。

Q：パワー半導体（前工程）の稼働率について、3Q 実績、4Q 見通しは。

また、2Q から3Q、4Q に向けての生産能力の変化は。

A：

・パワー半導体（前工程）の稼働率は、3Q は全体で約8割、4Q は若干増加する見通し。  
・生産能力は8インチを中心に増加しており、1Q、2Q はほぼ横ばいだが、3Q は対2Q 約10%増、4Q は対3Q 約5%増の見通し。

## 食品流通

Q：中国自販機ビジネスにおける新型コロナウイルスの影響と大連工場の操業見通しは。

A：

- ・大連工場の操業は、政府からの要請に従い旧正月休暇を延長する。
- ・新型コロナウイルスの影響については現時点で不透明。

以上